

## 27 当院でのヘモグロビン変動に与える因子に関する検討

医療法人鈴木泌尿器科 透析室

小林直広 中沢由雄 鈴木都美雄

### I 目的

我々は、日本透析医学会、腎性貧血ガイドラインに従い、血清フェリチン 100ng/ml、TSAT20%以上を目標に治療してきた。しかし今回、鉄過剰、鉄欠乏の視点で当院の現状を評価した。

### II 方法

2008年1月より2010年5月までの期間中、腎性貧血ガイドラインより、血清フェリチン 100ng/ml、TSAT20%以下を鉄欠乏とした。

エリスロポエチン (EPO) ガルベポエチン (DA) の投与された、入院患者を含め経過観察できた、週3回透析患者 39名。(図1)

平均 ESA 投与量、平均鉄剤投与量、平均 Hb 値の年度別推移を観察し、また、前田らの鉄状態の分類で検討した。(図2)

(2009より鉄投与方法の変更を行い、各回連続投与から週1回投与としている)

患者背景			
エリスロポエチン投与患者			
男性	20名	平均年齢 67.1歳	平均透析期間 12.7年
女性	7名	平均年齢 74歳	平均透析期間 9.1年
ガルベポエチン投与患者			
男性	7名	平均年齢 69.6歳	平均透析期間 10.5年
女性	5名	平均年齢 66.6歳	平均透析期間 10.8年

図1

前田らの鉄状態の分類(2007)

分類	血清フェリチン(ng/ml)	TSAT (%)
鉄過剰	100以上	20以上
相対的鉄欠乏	60以上	20未満
鉄充足	60以上 100未満	20以上
理想的鉄状態	60未満	20以上
鉄欠乏	60未満	20未満

図2

### ①EPO使用者 Hb 値患者割合年度別推移と鉄状態別患者割合 (図3)

2008年から2009年にかけて、Hb11g/dlを目標にEPO投与量を増加したが、Hb11g/dl以上の患者割合は増えたものの、意に反しHb10g/dl以下の患者割合も増加した。

2009年から2010はEPO投与量を抑えて使用したにもかかわらず、Hb10~11g/dlの患者割合は増加し、Hb10g/dl以下の患者割合は減少した。3年間の鉄状態を見ると、年次を追うごと鉄過剰患者割合は減少し、鉄充足患者割合の増加を見た。



図3

小林直広 医療法人 鈴木泌尿器科 透析室

〒380-0904 長野市鶴賀41-2 TEL026-227-8515

②DA 使用者 Hb 値患者割合年度別推移と鉄状態別患者割合 (図 4)

2009 年は、目標 Hb 値の見直しにより、鉄剤の増量と鉄剤投与方法の変更をした。その結果、Hb11g/dl 以上の患者が新たに見られる様になったが、Hb10g/dl 以下の患者割合も増加した。

鉄動態から鉄過剰患者割合が減少し、相対的鉄欠乏患者割合は改善されなかったが、鉄の有効利用が図られたと思われた。

尚 2009 年の EPO、DA 使用者両群共 Hb10g/dl 以下の患者と、鉄動態の分類における鉄欠乏患者割合の増加を見たが、本研究では原因を探る事は出来なかった。これらについては今後の課題として取り組みたい。

ESA 及び鉄剤の投与量の増加を図った。また、水口らの推奨する方法に従い、2009 年から鉄剤投与を、各回連続投与から週一回に変更した。その結果、鉄剤投与量の増加にもかかわらず、鉄過剰患者が減少した。この事は生体内の鉄が有効に使われ、我々の目標 Hb 値に達する患者の増加を見ることが出来たと考えられた。

IV 結語

2009 年より腎性貧血が「トラン」を指標に、目標 Hb 値の見直しと、鉄剤投与方法の変更を行った。それにより、生体内の鉄が有効に使われ、Hb の上昇と鉄過剰の患者割合が減少したと考えられた。

V 参考文献

- 1) 前田貞亮 血液透析患者の鉄の至適指標は低フェリチン高 TSAT 日本透析医学会誌 Vol22 No2 2007
- 2) 水口隆 腎不全患者に対する鉄剤の投与方法 透析会誌 42(1) : 59~69、2009

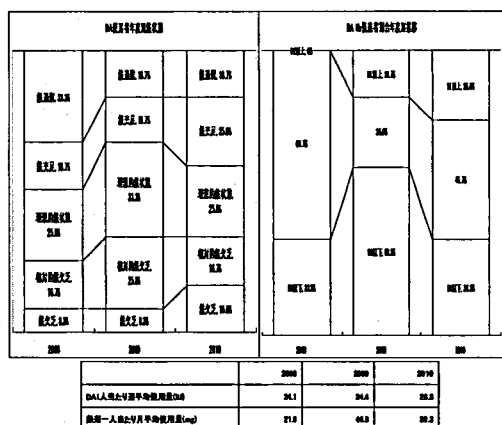


図 4

iii 考察

前田らの血清フェリチン 60ng/ml 未満、TSAT20%以上を理想鉄状態とする鉄の至適指標による分類に当てはめると、鉄欠乏の中にも Hb の高い患者や、鉄過剰であっても Hb の低い患者も見られる。

今回我々は日本透析医学会、腎性貧血が「トラン」に従い、2008 年から 2009 年にかけて目標 Hb 値を 10g/dl から 11g/dl へ見直しを行い、